

**1 研究主題**

中学校におけるOJTグループ活動による学校改善に関する研究  
－「生徒の自己決定」を共通テーマとして－

岡山県津山市立津山西中学校 教諭 福元 亮彦

**2 研究の具体と今後の課題**

本研究の目的は、共通テーマに基づいたOJTグループ活動が学校改善に有効な影響をもたらすことを明らかにすることである。OJTグループ活動の共通テーマに生徒指導の3機能の1つである「生徒の自己決定」を設定し、学校課題である生徒の主体性・意欲向上をねらいとした。OJTグループ活動による「生徒の自己決定」に関する実践内容と、その実践によって見られた教員と生徒の変容について考察を加えた。共通テーマの下でも活動内容の自由度や教員の主体性が見られた。研究の1年目は、半年間のOJTグループ活動を通じて「生徒の自己決定」についての教員の理解を深めることができ、2年目は、OJTグループ活動での実践を1年にわたって継続するとともに、学校経営目標・計画にも「生徒の自己決定」を位置づけることで、全教育活動において「生徒の自己決定」を柱とした実践を進めることができた。また、実践の効果を計るために「生徒の自己決定」に関する項目のアンケートを生徒に5月と11月にアンケートを実施し、生徒の意識変容について直接的に把握することもできた。今後の課題として、「生徒の自己決定」の実践をより蓄積すること、「生徒の自己決定」により生徒に身についた力を分析・分類、整理し、生徒の主体性・意欲向上により効果的な「生徒の自己決定」の実践を継続していくことが必要であると考えられる。

**1 研究主題**

小学校若手教員が学習成果を生み出す体育授業づくり研修の在り方についての研究

三木町立平井小学校 教諭 廣瀬 尚哲

**2 研究の具体と今後の課題**

昨年度の研究では、小学校若手教員が学習成果を生み出す体育授業づくりの研修プログラムの開発および有効性の検討を目的として、小学校第4学年のボール運動領域の授業において教職歴5年目までの若手教員2名と担当する児童を対象に「1. 研修プログラムの開発、2. 若手を対象にした支援、3. 学習内容を明確にした授業づくりの提案」を行った。その結果、実践の成果として、子どもたちが単元を通じて高いパフォーマンスを維持できたこと、実践後に子どもたちの体育の授業に対する意識が向上したこと、若手教員の体育指導の得意、不得意に応じた有効な支援の方法が一部明らかになったことがあげられる。一方、課題としては、個人研修として効果的であったが、全体研修にするには準備や支援に時間がかかること、若手を含む、より多くの教員に対しても効果の保障された研修に出会えるようにすること、子どもたちに学習成果を保障できる体育授業を確立できる全体研修を行うことがあげられる。

これらを踏まえ、教職歴5年目までの若手教員に対して、本校の若年教員研修において体育授業の研修の機会をもつこと、全体への体育授業づくりの提案として体育の校内研究授業を行うこと、若手教員を含む2つの学年において体育の授業実践を行うことを今年度の実践とした。学習成果を生み出す体育授業づくりへの教員全体の理解が課題である。